

平成 30 年度美幌町総合教育会議資料

平成 30 年 10 月 17 日(水)

平成 30 年度

全国学力・学習状況調査結果について(概要)

美幌町教育委員会

1 はじめに

○ 全国学力・学習状況調査は、対象学年の全児童生徒が参加し、すべての市町村、学校の学力等の状況の把握等のために平成 19 年度から実施され、今年度で 12 年目を迎えました。

○ 本調査については、平成 32 度から本格実施される新学習指導要領のねらいに基づき、次年度以降の調査について、教科の改善等がされています。

○ 本年度の全国学力・学習状況調査結果については、文部科学省から、例年より一か月程早く、公表されました。

これに対応して、美幌町の小中学校別の結果概要の公表については、町『広報』において、9月号を第1回目として、11月号までの3回のシリーズで、町民の皆様にお知らせしています。広報での掲載は、あと1回を予定しています。

○ 本調査結果は、学校における教育活動の一側面であり、学力のすべてを表しているものではありませんが、概要をお知らせすることにより、美幌町の子どもたちの状況をご理解いただき、教育施策等に反映していただければ幸いです。

『地域の子どもは地域で育てる。』の視点で、町民全体で未来ある子どもの育成に尽力していく所存です。

2 全国学力・学習状況調査について

(1) 実施日 平成 30 年 4 月 17 日(火)

(2) 対象 小学 6 年の全児童と中学 3 年の全生徒

●小学 6 年 国語 A B・算数 A B・理科 3 校 154 名

●中学 3 年 国語 A 2 校 159 名

(1 名 体調不良)

国語 B・数学 A B・理科 2 校 160 名

(3) 内容 国語 A、算数・数学 A … 主として「知識」に関する問題

国語 B、算数・数学 B … 主として「活用」に関する問題

理科 … 「知識」と「活用」に関する問題

学習状況調査(学校、児童生徒質問用紙調査)

3 全国学力・学習状況調査結果の概要について

1 学力調査（児童生徒の学力の状況について）

【平均正答率】について、全国、北海道をもとにした美幌町の状況です。

平成30年度の結果については、美幌町全体として、小中学校ともに、全国や北海道の平均正答率を上回った教科はありませんでした。

＜小学校＞

年度	小学6年	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
30	美幌町	61.6	45.7	51.9	38.3	53.1
	全国（公立）	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
	美幌町と全国との差	▼9.1	▼9.0	▼11.6	▼13.2	▼7.2
	北海道（公立）	70.1	52.7	62.2	48.7	58.8
	美幌町と北海道との差	▼8.5	▼7.0	▼10.3	▼10.4	▼5.7
29	美幌町	73	50	74	40	*
	美幌町と全国との差	▼1.8	▼7.5	▼4.6	▼5.9	*

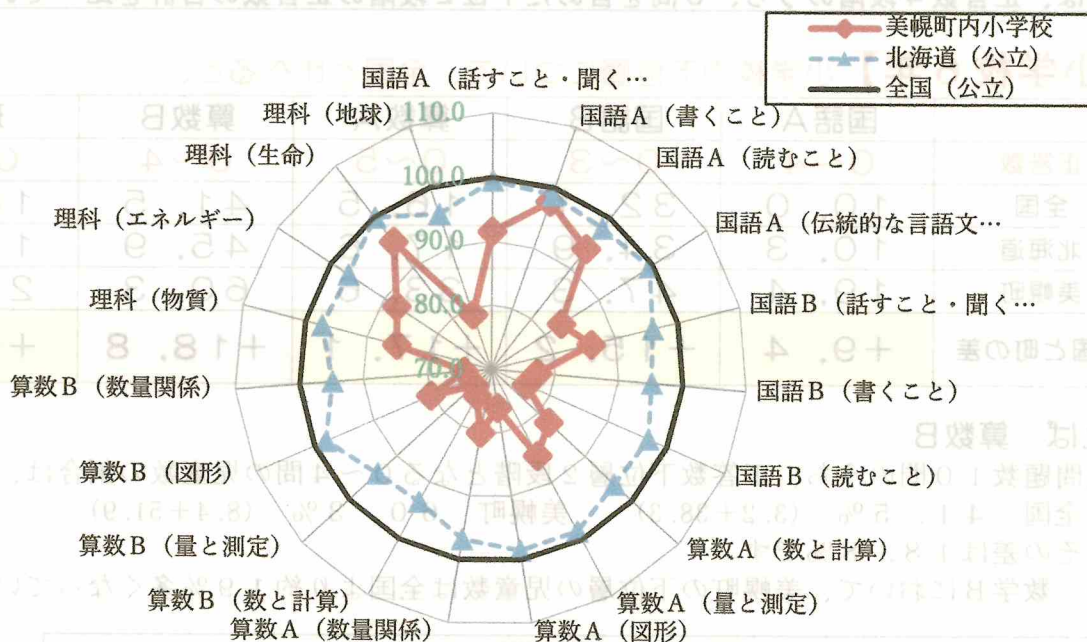
＜中学校＞

年度	中学3年	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
30	美幌町	71.5	55.8	59.3	39.7	61.9
	全国（公立）	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
	美幌町と全国との差	▼4.6	▼5.4	▼6.8	▼7.2	▼4.2
	北海道（公立）	76.6	61.2	64.9	45.8	66.7
	美幌町と北海道との差	▼5.1	▼5.4	▼5.6	▼6.1	▼4.8
29	美幌町	72	64	57	42	*
	美幌町と全国との差	▼5.4	▼8.2	▼7.6	▼6.1	*

- 美幌町の平均正答率を全国と比べてみると、最も差が小さいのは、小6は理科の－7.3ポイント、中3は国語Aと理科の－4.1ポイントでした。最も大きいのが、小6では算数Bの－13.5ポイント、中3では数学Aの－7.1ポイントでした。
- 昨年度と比較すると、中3の国語Aと数学Aで0.5～3ポイント縮まりましたが、中3の数学Bと小6の全教科で、全国との差が開きました。特に小6の算数はAとBとも大きく開きました。
- 今後は、各校で行われている学力・学習状況調査結果の分析をもとに、より質の高い指導への改善を図るために、学校としての施策を練り、組織的に取り組んでいきます。
家庭におかれましても、家庭での学習習慣の確かな定着のために、お子さんと話し合いをもちながら見直しを図っていただくようお願いします。
- 美幌町教育委員会としましても、学力向上に向けて、授業改善推進チーム活用事業、習熟度別等の少人数指導、また町費負担の教育支援員による指導、放課後学習や長期休業中学習サポート事業、美幌町学習規律の徹底、さらに、地域や社会教育と連携した通学合宿や親子国語教室の開催等の施策を、より実効性のあるよう充実させていきます。

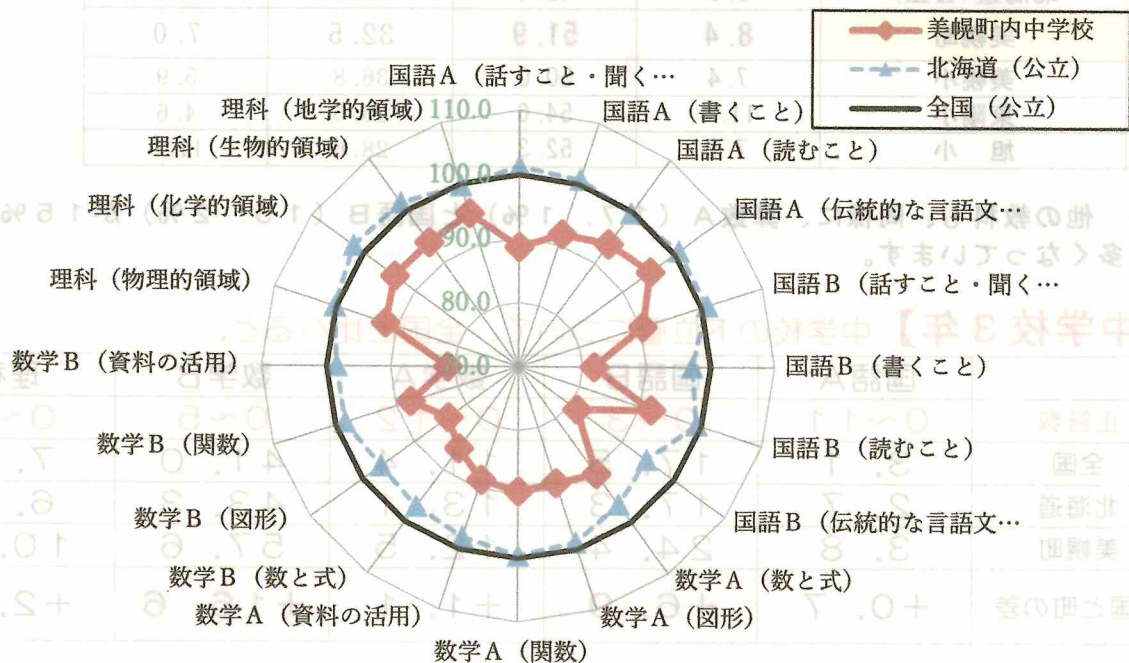
資料 1 各教科の領域別正答率は

【小学校・教科】



- 国語Aでは、「書くこと」で全国に最も近くなっています。
- 理科では、「生命」で全国に最も近くなっています。

【中学校・教科】



- 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国に最も近くなっています。
- 理科では、「地学的領域」で全国に最も近くなっています。

資料 2 正答数をもとに全国と比較すると

今回は、正答数 4 段階のうち、0 問を含めた下位 2 段階の正答数の合計を比べています。

【小学校 6 年】 小学校の下位層について、全国と比べると、

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
正答数	0~4	0~3	0~5	0~4	0~6
全国	10.0	32.1	16.5	41.5	18.0
北海道	10.3	34.9	17.6	45.9	19.4
美幌町	19.4	47.3	33.6	60.3	27.2
全国と町の差	+9.4	+15.2	+17.1	+18.8	+9.2

例えば 算数 B

全問題数 10 問のうち、正答数下位層 2 段階となる 0~4 問の児童数の割合は、

全国 41.5% (3.2+38.3) 美幌町 60.3% (8.4+51.9)

その差は 18.8% です。

⇒ 数学 B において、美幌町の下位層の児童数は全国より約 19% 多くなっています。

小 6 算数 B					
正答数		0	1~4	5~7	8~10
児童数	美幌町	13	80	50	11
	美幌小	5	34	25	4
	東陽小	5	24	13	2
	旭小	3	22	12	5
割合	全国(公立)	3.2	38.3	36.0	22.6
	北海道(公立)	3.5	42.4	34.9	19.3
	美幌町	8.4	51.9	32.5	7.0
	美幌小	7.4	50.0	36.8	5.9
	東陽小	11.4	54.6	29.5	4.6
	旭小	7.1	52.3	28.6	11.9

→ 他の教科も、同様に、算数 A (17.1%) と国語 B (15.2%) が 15% 以上も多くなっています。

【中学校 3 年】 中学校の下位層について、全国と比べると、

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
正答数	0~11	0~3	0~12	0~5	0~9
全国	3.1	17.5	11.4	41.0	7.8
北海道	2.7	17.3	13.1	43.3	6.7
美幌町	3.8	24.4	12.5	57.6	10.7
全国と町の差	+0.7	+6.9	+1.1	+16.6	+2.9

例えば 数学 B

全問題数 14 問のうち、正答数 0~5 問の生徒数の割合は、

全国 41.0% (3.0+38.0) 美幌町 57.6% (5.0+52.6)

その差は 16.6% です。

⇒ 数学 B において、美幌町の下位層の生徒数は全国より約 17% 多くなっています。

中 3 数学B					
正答数		0	1～5	6～10	11～14
生徒数	美幌町	8	84	49	19
	美幌中	5	27	19	10
	北 中	3	57	30	9
割合	全国(公立)	3.0	38.0	43.0	16.0
	北海道(公立)	3.1	40.2	41.3	15.4
	美幌町	5.0	52.6	30.7	11.9
	美幌中	8.2	44.3	31.2	16.4
	北 中	3.0	57.6	30.3	9.1

→ 他の教科は、国語Bは（6.9％）だが、国語B（0.7％）、算数A（1.1％）、理科（2.9％）とそれほどの開きはありません。

資料3 無解答率をもとに全国と比較すると

【小学校】 国語A 12問のうち 無解答率10%以上の問題 5問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
8オ	文の中で漢字を使う（せつ極的）	漢字を文の中で正しく使う	40.3	50.1	51.4	19.5	7.5	7.7
8ウ	文の中で漢字を使う（しょう毒）	漢字を文の中で正しく使う	70.8	82.4	82.2	18.8	6.3	6.6

⇒ この上位5問は、問8にある「漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題です。

【小学校】 国語B 8問のうち 無解答率10%以上の問題 2問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】C 最も心がひかれた一文とその理由の文章の□に入る内容を書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	33.8	51.1	52.3	29.9	13.4	11.9
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、□を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	20.8	29.1	33.8	15.6	6.7	6.2

⇒ 2問とも記述式の問題で、他の5問は選択式の問題であることから、自分の考えや他と比べて考えをまとめる等、きめられた字数で書くことが課題です。

⇒ 3設問二の問題は、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる」かどうかをみる問題です。

- 条件があり、① 求められていることについて(趣旨に沿って)考えて書く。
 ② 問題文から言葉や文を取り上げて書く。
 ③ 60字以上100字以内で書く。

【小学校】 算数A 14問のうち 無解答率10%以上の問題 5問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
9	示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる	53.2	62.7	63.6	20.8	7.4	7.2
8	200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ	百分率を求めることができる	39.0	52.5	52.9	15.6	4.7	4.6

⇒ 5問中、3問が図形で、3問が数量関係である。(1問は図形と数量関係のどちらの領域にも入る問題。) すべて選択時の問題から、図形やグラフ、百分率などの数量関係の技能、知識・理解が課題です。

⇒ 問題9については、「折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる」かどうかみる問題で、4つのグラフから示された2つの条件の両方に当てはまるグラフを選択します。

【小学校】 算数B 10問のうち 無解答率10%以上の問題 6問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
3 (1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	7.8	18.3	20.7	41.6	20.1	18.0
5 (1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	23.4	38.3	43.2	37.7	20.0	16.6
1 (2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述できる	27.9	45.0	48.2	30.5	16.0	14.4
4 (2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	36.4	55.5	59.5	30.5	13.3	11.3

- ⇒ 算数Bの活用問題は、10問中6問で無解答率20%を超えている。形式は、6問中、上位4問が記述式です。6問中、4問が数と計算、残り1問ずつが図形と数量関係で、観点別では、すべての問題が数学的な考え方です。
- ⇒ 問題3(1)は、「日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることができる」かどうかをみる問題です。
- ⇒ グラフの特徴を複数の観点でとらえて、情報を読み取ることができるようにするためには、他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈することができるようにすることが大切です。

【小学校】 理科 16問のうち 無解答率10%以上の問題 2問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
4 (4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善しその内容を記述できる	22.7	35.0	35.9	18.2	8.7	8.9

- ⇒ 無解答率10%以上の問題数は、16問中1問だけです。この問題は主として活用に関する問題で、観点は科学的な思考・表現、問題形式は記述式です。

【中学校】 国語A 32問のうち 無解答率10%以上の問題 7問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
8 — 3	漢字を書く (先制点をユルす)	文脈に即して漢字を正しく書く	67.9	71.7	71.4	23.9	18.8	19.5
6 — 1	話合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	56.0	68.1	65.8	23.3	13.7	13.3

- ⇒ 無解答率上位7問のうち、漢字を書く問題が3問である。残りの問題も形式は短答式です。漢字の読み書きに課題がみられます。
- 問題8の一には、漢字を書く問題が3問あります。
- 一3 先制点をユルす。 無解答率 23.9% 正答率 67.9%(全国比▼3.5%)
 - 一2 舞台のマクが上がる。 15.1% 76.1%(全国比△3.2%)
 - 一1 紙をひもでタバねる。 13.8% 79.9%(全国比△0.9%)
- ⇒ 無解答率は高いが、正答率は全国並みです。漢字の読み書きの理解が不十分な生徒への個別対応が必要です。

【中学校】 国語B 9問のうち 無解答率10%以上の問題 3問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
3 三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝えるように、あらすじを捉えて書く	40.0	46.6	49.2	28.1	15.8	12.4

⇒ 3問とも記述式の問題です。

→ 問題3三は、「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」ことができるかどうかをみる問題です。問題にある話のあらすじを、次の二つの条件で書く。

① 話の展開を取り上げて書く。 ② 70字以上、120字以内で書く。

⇒ 作品のあらすじをまとめる際には、それぞれの場面の内容や場面相互の関係をとらえ、話の展開を踏まえるように指導することが大切です。

【中学校】 数学A 36問のうち 無解答率10%以上の問題 7問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
2 (4)	等式 $S = \frac{1}{2}ah$ を、 a について解く	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	40.0	47.2	48.2	27.5	17.5	15.3
11 (1)	一次関数 $y = 2x + 7$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる	37.5	47.0	45.3	26.9	16.1	14.8
9 (2)	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる	46.3	55.1	55.0	26.3	13.8	13.0
2 (1)	「1個 a kg の荷物3個と1個 b kg の荷物4個の全体の重さは15 kg以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	30.6	39.1	41.5	22.5	9.8	8.5

⇒ 問題2(4)は、「具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる」かどうかをみる問題です。

$$S = \frac{1}{2} ah \quad \Rightarrow \quad a = 2S/h$$

→ 平成21年度調査で同一の問題を出題しています。その時の全国正答率は45.7%でした。今回は、49.2%であり、改善の傾向はみられていますが、回答率50%は引き続き課題です。

【中学校】 数学B 14問のうち 無解答率10%以上の問題 11問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
3 (3)	A 駅からの道のりが6 kmの地点において、列車アが通ってから列車エが通るま	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明するこ	11.3	11.6	13.2	56.9	38.9	33.4

	での時間をグラフから求める方法を説明する	とができる							
1 (3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	29.4	34.2	36.2	48.8	29.3	24.9	
5 (1)	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	13.1	17.4	16.0	48.8	27.4	24.1	
4 (3)	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし説明することができる	36.3	40.5	42.3	43.8	28.3	24.6	
2 (2)	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	23.8	34.9	37.5	43.1	29.0	25.0	
1 (1)	全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒数の割合を求める	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	45.0	54.1	55.7	28.1	12.5	11.1	

⇒ 問題5を除いた3問は、いくつかの条件の下で、説明する、証明する等、記述式の問題です。

⇒ 問題3(3)は、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」かどうかをみる問題です。

『A駅からの道のりが6kmの地点において、列車アが通ってから、列車エが通るまでおよそ何分かかるか、グラフから求める方法を説明する。』

⇒ 問題1(3)は、「不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる」かどうかをみる問題です。

AB2つのくじ引きの方法で、AよりもBの方法の方が選ばれやすい理由について確率を使って証明するものです。

⇒ 問題5(1)は、「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる」かどうかをみる問題です。

『560円は、3500円の何パーセントにあたるかを求める式をつくる。 $\frac{560}{3500} \times 100$ 』

⇒ 問題4(3)は、「付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし、説明することができる」かどうかをみる問題です。

『四角形ABCDを平行四辺形から正方形に変えた時の、四角形EBFDはどんな四角形になるかについて、「～ならば…になる。」という形で書く。』

⇒ 問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるように指導することが大切です。
 その際、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいといった、「用いるもの」と「用い方」を確認し、表、式、グラフの「用い方」について説明する場面を取り入れることが大切です。

【中学校】 理科 27問のうち 無解答率10%以上の問題 8問

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			美幌町	北海道	全 国	美幌町	北海道	全 国
8 (3)	火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識技能を活用することができるかどうかをみる。また探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探究を深めようとしているかどうかをみる	探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探究を深めようとしている アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる	58.8	73.4	74.0	38.8	21.3	20.3
9 (2)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる	14.4	19.3	19.4	38.1	22.0	21.4
4 (3)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	41.3	49.4	49.4	31.9	16.8	16.2

⇒ 無回答率10%以上の問題数は、27問中8問でした。
 問題8(3)は、「探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探究を深めようとしているか」どうかを見る問題です。
 『アルミニウムは水の温度変化に関係していることはわかりましたが、【新たな疑問】をもちました。あなたならアルミニウムについて、どのような新たな問題をもちますか。その疑問を書きなさい。』
 ⇒ 授業の終末に探究の過程を振り返り、新たな疑問をノートやワークシートに記録する学習場面を設定する、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、記録した新たな疑問を振り返り、新たな探究を計画する。等によって主体的に探究する活動を促すことが大切です。

2 学習状況調査（児童生徒の生活習慣・学習状況について）

【児童・生徒質問紙からみた美幌町の生活習慣や学習状況についてです。】

美幌の子どもたちの家庭等での学習状況について

① 平日、学校の授業時間以外に家庭や学習塾等で1日当たり1時間以上勉強する割合（％）

① 勉強 1日1時間以上する				
	年	美幌町	北海道	全国
小6	平成28	35.6	54.7	62.5
	平成29	40.9	57.1	64.4
	平成30	38.2	57.1	66.2
中3	平成28	37.8	61.8	67.9
	平成29	51.2	64.2	69.6
	平成30	52.2	64.7	70.6

② 勉強 全くしない				
	年	美幌町	北海道	全国
小6	平成28	2.5	2.6	3.0
	平成29	6.7	7.8	9.7
	平成30	5.2	2.2	2.5
中3	平成28	16.1	7.6	5.5
	平成29	15.7	6.5	4.9
	平成30	14.9	6.7	4.9

② 家で、自分で計画を立てて勉強している割合（％）

③ 計画を立てて勉強している				
	年	美幌町	北海道	全国
小6	平成28	55.0	63.3	62.2
	平成29	62.2	65.4	64.5
	平成30	58.4	67.6	67.6

中3	平成28	30.8	48.2	48.4
	平成29	39.0	51.2	51.5
	平成30	47.8	52.6	52.1

* 家で、学校の宿題をしていますか

	美幌町	全国比	全国	北海道
小6【している】	94.8	▼2.3	97.1	94.8
小6【全くしない】	1.3	△0.7	0.6	1.0
中3【している】	85.0	▼6.6	91.6	92.3
中3【全くしない】	6.2	△4.4	1.8	1.9

* 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか				
	美幌町	全国比	全国	北海道
小6【している】	55.8	▼6.8	62.6	70.9
小6【全くしない】	9.7	▼0.3	10.0	7.1
中3【している】	47.8	▼7.4	55.2	58.4
中3【全くしない】	20.5	△7.4	13.1	11.5

③ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

	年度		美幌町	全国との差	全国	北海道
小6	29	1時間以上	14.7	▼2.1	16.8	17.0
		30分以上	35.4	▼1.1	36.5	35.6
	30	1時間以上	16.9	▼2.4	19.3	19.0
		30分以上	35.1	▼6.0	41.1	38.7
中3	29	1時間以上	19.2	△5.2	14.0	15.4
		30分以上	38.4	△9.2	29.2	31.4
	30	1時間以上	19.3	△4.5	14.8	16.1
		30分以上	31.1	△0.2	30.9	32.8

- 学力向上の取組に欠かせない要因として、生活習慣や学習習慣の形成が大切となってきます。児童・生徒質問紙の中から、家庭での学習と読書について、現状・実態をみてみます。

- ① 平日に1日当たり1時間以上勉強している割合は、小6で38.2%、中3で52.2%と、小6は4割を切っています。
また、全国平均との差を比べると、小6は28%で、昨年の23.5%よりさらに4.5%開きました。1時間以上勉強している児童は、全国より3割も少ない現状です。
中3は18.4%で、昨年の18.4%と同じ開きです。1時間以上勉強している生徒は、全国より2割少ないです。
- ② 一方、全く勉強をしない小6は5.2%と全国平均の2倍、中学校は14.9%と全国平均の3倍となっています。全く勉強をしない児童・生徒数の割合は高いといえます。
- ③ 家庭において、自分で計画を立てて勉強している割合は、小6で58.4%、中3で47.8%です。全国平均より小6で9.2%、中3で4.3%下回っています。
全国平均の差を昨年度と比べると、小6では6.9%開き、中3で8.2%縮小しました。このことは、自分で計画して勉強している中学生が大きく増加したといえます。
- ④ 家で学校の宿題をしている割合は小6で94.8%、中3は85.0%で、全国平均より2.3、6.6%低くなっています。とはいえ、小6の割合は北海道と同じであり、宿題をしている割合は高いといえます。
ただ、全く宿題をしない割合が、全国平均より小6で2倍、中3で3倍となっていることは課題です。

- ⑤ 同じく、家で、学校の授業の予習・復習をしている割合は、小6で55.8%、中3で47.8%と、ほぼ5割にとどまっています。また、小6で約10%、中3で約20%の子がまったくしないことは課題といえます。
- ⑥ 学校の授業時間以外で30分以上読書している割合は、小6は35.1%で、全国より6.0%低く、中3は31.1%で、全国より0.2%高くなっています。1時間以上の読書は、小6は16.9%で全国より2.4%低く、中3は19.3%で、全国より4.5%高くなっています。このように、中3で全国平均を上回り、読書習慣が身についてきました。また、読書時間を昨年度と比較すると、1時間以上読書する小6が2.2%増え、読書に親しむ子が増えています。

→ 家庭等で全く学習しないことは致命的なことです。

児童生徒は、まずは、家庭学習の習慣を確実に身に付けることが必要です。習慣化している児童生徒には、量と質の向上です。

学校は、各学校で取り組んでいる「家庭学習の手引き」の実効化と、保護者への啓もうや、学校と連携した取組を練ることで。

また、個に応じた家庭学習を指導するとともに、児童生徒一人一人に、家庭での学習の意味や必要性について、今一度考えさせ、実感としてとらえさせる指導が重要です。

家庭では、繰り返し声かけや励ましをしていただくとともに、家庭での学習に大きな影響を与えているゲームやスマートフォンについて、時間等のルールを子どもとともに決め、守っていく等、学習習慣を確実に身につけさせていくための意図的な働きかけが必要です。

学校と家庭、地域が一体となって、美幌町の教育づくりをしていきましょう。

3 学習状況調査（児童生徒の生活習慣・学習状況）より、 全国平均を上回っている項目について

美幌町の児童生徒の結果が全国平均より上回っている項目です。

美幌の子供たちの頑張りでです。

【小学6年】

質問紙の項目	美幌町	全国	全国比
①新聞を読んでいますか。	22.0	19.9	+2.1
②地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	22.1	19.5	+2.6
③理科の勉強は好きですか。	55.8	52.6	+3.2

- ① 「新聞をほぼ毎日読んでいる」と「週に1～3回程度読んでいる」児童をあわせると、全国より2.1%上回っています。また、表にはありませんが、さらに「月に1～3回程度読んでいる」児童を追加すると43.4%になり、全国より4.5%上回ります。美幌の4割の児童は、月に1回以上新聞

を読んでいます。

② よくあると回答した児童が、全国より2.6%上回っています。美幌の児童は、地域の大人とのかかわりが深いといえます。まさに美幌町のモットーである『地域の子供は地域で育てる』が数字でも表れています。

③ 「理科の勉強が好き」な児童は、全国より3.2%上回っています。また、表にはありませんが、「理科の勉強の内容は分かりますか」の質問に、59.1%の児童がよく分かると回答し、これは全国より3.2%上回っています。『好きこそものの上手なれ』です。

【中学3年】

質問紙の項目	美幌町	全国	全国比
①自分には、よいところがあると思いますか	80.7	78.8	+1.9
②将来の夢や目標をもっていますか。	52.2	45.3	+6.9
③人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	73.9	70.7	+3.2
④家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。	80.8	76.0	+4.8
⑤地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	14.9	9.2	+5.7

→①②③

自分のよさを認識している生徒は全国より1.9%多く、自己有用感が高いといえます。自己有用感が高ければ、周囲への貢献意欲も高まり、感謝の気持ちも芽生えてきます。このことが、②の全国平均より6.9%も高い「自分の将来の夢や目標をもつ」や③の全国平均より3.2%高い「人の役に立ちたい」と思う気持ちにつながっています。

④⑤

「家の人と学校の話をする」生徒は、全国より4.8%、「地域の大人に教えてもらったり、遊んだりすることがある」生徒は、全国より5.7%上回っています。このことから、美幌の生徒は、家庭の保護者や地域の大人等とのかかわりが深いといえます。

- 中学3年の質問紙においては、この他に、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「数学の勉強は好きですか」「理科の勉強は好きですか」「数学ができるようになりたいと思いますか」等で、全国平均より上回っています。

4 おわりに

◎ 今、各校は、管理職、主幹教諭、教務主任、担任(教科担任)等を核とした学力向上プロジェクトチームや学力向上委員会によって、組織的に、本調査結果を詳

細に分析しています。それを基に学校としての取組を策定し、さらに、今年度から全小中学校が2回実施する学校評価の一回目(7月)の分析結果も取り入れて、学校改善プランの改善が行われています。各校が取組を確実に推進し、授業改善はもちろんのこと、無解答率の向上等、下位層への対応にもより力を入れていきます。

そのためにも、3チームによる習熟度別指導やタブレット等のICTの活用によって、より個への対応を図っていく必要があります。

参考 平成31年度以降の全国学力学習状況調査について

平成31年度から、知識・活用を一体的に問う調査問題へ 中学校3年で「英語」の調査

新学習指導要領にある3つの柱、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が相互に関係しあいながら育成されるものであるという考え方に基づき、平成31年度以降は、A問題とB問題という区別を見直し、知識・活用を一体的に問うことになります。

★ 平成31年度の調査教科は、
小6は『国語』『算数』、中3は『国語』『数学』『英語』です！ ★

全国学力・学習状況調査は、学習指導要領改訂を踏まえて、次年度(平成31年度)から変更になります。その中から、実施される教科の改善点についてお知らせします。

- ① 小6の国語・算数、中3の国語・数学は、引き続き、毎年度実施されます。
ただし、調査問題については、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、A問題とB問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う問題になります。
⇒ 今年は『国語A』(知識)と『国語B』(活用)別でしたが、次年度から『国語』として知識と活用が一体化されます。算数と数学も同様です。
- ② 理科は、引き続き、3年に一度程度実施されます。
⇒ 次回は、平成33年度に実施される見込みです。
- ③ 中学校における英語力を測る調査を、次年度から3年に一度程度実施されます。
⇒ 平成31年度から、中3で『英語』が実施されます。『聞くこと、読むこと、書くこと(45分)』領域と、パソコン等を活用した『話すこと(15分)』領域に分かれた調査となります。

- 教科調査とは別に、『児童生徒質問紙調査』については、引き続き、毎年度実施されます。

